



平成16年度活動計画

感染制御部 部長 白倉良太

TITLE

先月の感染制御部運営部会において平成16年度の活動計画をご議論頂き、以下のような計画をご承認いただきました。

1) 職員の健康管理

- (1) 全職員のウイルス抗体価のデータベース化(2年計画)
- (2) 職員の抗体価測定対象の拡大(新規採用者のみでなく希望者、希望部署)
- (3) 麻疹、水痘、ムンプス、風疹、B型肝炎ワクチンの感受性職員全員接種へ
- (4) インフルエンザワクチンの全職員接種への取り組み
- (5) 病院内アウトブレイク時の対応

2) サーベイランス

- (1) 抗菌薬使用実態の把握(医療情報部、薬剤部との連携)
- (2) MRSAなど重要な耐性菌のサーベイランス
- (3) 病院内アウトブレイク(結核、麻疹、水痘、ムンプス、風疹、インフルエンザ)
- (4) エピネット報告の徹底
- (5) 部署を限定したSSI, BSI, UTI, VAPサーベイランス

3) インターベンションの実施

- (1) 定期的ICT病棟ラウンドの実施と病院感染対策の向上
- (2) ICUなどにおける一足制導入、再使用ガウンの廃止の検討
- (3) 長期抗菌薬使用例への介入
- (4) 抗MRSA薬使用患者の不適正使用例への介入
- (5) サーベイランスとそれに基づくインターベンション

4) レギュレーション/コンサルテーションの充実

- (1) 感染症の診断、治療に関するコンサルテーション
- (2) 予防・対策に関するコンサルテーション

5) 針刺し事故防止のための改善項目の実施

6) 教育

- (1) 院内感染対策講習会4~5回開催予定
- (2) リンクナース勉強会
- (3) 研修生(医師、看護師)の受け入れ

7) 地域感染制御ネットワークの維持と促進

- (1) SARS等の1類、2類感染症診療の地域における役割分担に積極的に参加すると同時に、トリアージ外来などを実施して大学病院の高度先進医療の遂行を維持する
- (2) 地域における病院感染対策のリーダーとしての役割を担う

- 8) 第6回大学附属病院感染対策協議会の当番校として11月に大阪で協議会を開催する

運営部会でもご説明致しましたが、少し追加致します。

感染症対策に欠かせない職員の健康管理、とりわけウイルス感染症についての抗体検査、ワクチン接種(抗体陰性者・原則希望者)をひとりでも多くの職員に実施するべく、啓発と予算確保に努めたいと思います。全職員に強制、義務化するべきかとも考えますが、まだ時期尚早だろうと思います。抗体検査の実施計画、予定表は学内専用のホームページを見て頂きたい。

サーベイランスとそれに基づくインターベンションは昨年から少しずつつけてきたところですが、専任スタッフの数と、膨大な仕事量をこなす時間と、強い意志が必要で、各病棟、部署でのご協力が成否のかぎをにぎるものと考えます。今年はスリッパの履き替えやガウンの廃止をどのように行うか、作業部会を立ち上げ、現場の英知を結集して実行にうつしたいと思います。抗菌薬の正しい使い方も、現場の英知を結集して実績を積み上げていきたいと考えています。薬剤を特定・限定したり、量や組み合わせを申し合わせたりするのではなく、患者さんにあった個々の使用法を現場で議論したいと思います。

難題は「針刺し事故」の撲滅です。啓発、キャンペーンだけでは限界があるようです。少しお金をかけて予防に努めたい。外来患者さんの採血を行っている検査部では、事故が起こっていない! これは重要な教訓だと思います。

教育については、肩のはらない講習会を、これまでの年3回から、少し回数を増やして実施する予定にしています。リンクナースの勉強会はこれまでも看護部の努力で量、質とも充実した会が行われてきました。リンクドクターにもそういった機会を提供できたらと考えています。本年から、学外のICTのメンバーが研修に来られています。一緒に勉強していきたいと思いますので、各部署に出入りする時はどうぞよろしくお願い致します。

感染制御を地域のネットワークを形成して実施する計画は、時間をかけて、議論を尽くして取り組みたいと考えております。この課題については、来る

5月19日に東北大学の賀来満夫教授をお招きして、阪大フォーラムを開催します。感染対策を地域単位で考え、実行されている賀来先生の御講演を拝聴し、今後の進め方を討論したいと思いますので、万障繰り合わせの上ご出席頂きますよう、お願いします。